

日本病院・地域精神医学会 会員の皆様

第 66 回日本病院地域・精神医学会総会神奈川大会
大会長 三吉 謙
運営委員長 奥原孝幸
運営委員一同

突然のお知らせをお許してください。

私どもは今年 12 月 16 日（土）17 日（日）、神奈川県立保健福祉大学（神奈川県横須賀市）にて開催されます第 66 回日本病院・地域精神医学会総会神奈川大会の運営をご担当させていただいております。

久し振りの対面だけでの会場開催を目指して準備を進めております。今回の運営委員会の構成はこれまでの大会とは異なり、医療関係者が多くを占めず、神奈川精神医療人権センターを中心に神奈川県内の地域支援の関係者がほとんどで、学会運営の詳細をあまりわからないまま進めております。進捗が遅くなってしまい、会員の皆様にはご心配とご迷惑をおかけしておりますこととお詫び申し上げます。

さて、先般より一般演題、交流企画の募集（8 月 15 日応募締め切り）をいたしておりますが、応募が少ない状況です。特に一般演題に関しましては応募が数件の状況です。

つきましては、応募期間を 8 月 31 日まで延期いたします。医療、地域支援、両者をつなぐことに関すること、人権問題等々研究だけでなく、実践の紹介や考察など応募をお待ちしております。

この機会にぜひ学会発表のご経験、実績作りをしてみませんか。演題抄録作りや発表がご心配な方はご相談の受け付けも可能です。

応募方法は前回お送りしたチラシ、本学会サイト内の大会ホームページをご参照ください。

また、もうひとつお願いがあります。今大会では、大会企画としていくつかのシンポジウムやリレートーク、一般公開企画等を企画しています。つきましては、別紙のようにプログラムの一つに関して、支援現場、特に病院での「個人的な関わりに関する葛藤」に関して各専門職や患者当事者、ご家族、人権団体スタッフ等によるリレートークを企画しています。

様々な立場でリレー的に語っていただき、お聴きの皆さんを交え、今自分ができるところを考え、それを実行するエネルギーに、明日またはいつかの行動に発展するようになれば幸いです。

大きくはありませんが私たちの関わりを基本的、根本的な部分の関わりを葛藤をお話しいただける方を求めています。トークはお一人 5～10 分程度です。短い持ち時間ですが関わりにおける個人的な葛藤を語っていただける方をお待ちしています。どのようなことでも、以下までお問い合わせください。

ご質問、応募等、お問い合わせ先
大会事務局 66byochi.kanagawa@gmail.com

第 66 回日本病院地域・精神医学会総会神奈川大会
事務局（KP 神奈川精神医療人権センター）
66byochi.kanagawa@gmail.com

第 66 回日本病院地域・精神医学会総会神奈川大会のホームページは、
日本病院・地域精神医学会ホームページ内にごございます。

大会企画② 「支援現場の葛藤を語り合う勇気のリレートーク」
テーマ：医療現場での人権問題、そこにある葛藤を語らおう。

企画趣旨

衝撃的な滝山病院事件が明るみに出て一年がたちます。病院職員の逮捕、NHKを中心とした報道、この事件をきっかけに様々な観点から多くの指摘と動きがありました。病院内の問題だけではなく制度や社会の問題を様々な角度から指摘もされました。しかし、それは初めてのことでなく、人権侵害ともいえる行為はこれまで何度も繰り返されています。

行為者である病院職員は、病院の中の一職員としてその立場に立って働いています。その個人の集まりである集団が各部門や病院全体を構成しています。病院は社会の中（もしかしたら外？）にあります。一個人の仕事として最初から人権侵害をしようと考えて現場に立つ人はいません。理想を目指しながら、忙しさと焦り、迷いや葛藤を抱えつつ、流されたり、慣らされてその蛮行に行き着くとも言えます。それは、その葛藤を抱えながら日々業務に励み、小さくても可能な限りの努力を積み重ねている人たちの努力を、行為者自身のこれまでの努力をも台無しにしてしまいます。

そこにいたくなければ移動できるのが専門職です。居続ける理由があるのでしょう。病院職員や患者やご家族などの個人も社会もその病院を選ばなければよいのです。でも選ばれるを得ない・・・。

このシンポジウムでは、その専門職としての関わりの中での個人の葛藤、努力や地団駄、やるせなさ等のその思いを、様々な立場でリレー的に語っていただき、お聴きの皆さんを交え、今自分ができることを考え、それを実行するエネルギーに、明日またはいつかの行動に発展するようになればと思います。その個人の行動を集団に、仲間に広げていければと思います。それが今回のこの企画の視点であり、目的です。

加えて、強者と弱者、支配者と被支配者、支援者と被支援者等、この関係性の中でも公正、公平、平穏に暮らせる社会にしたいものです。病院職員等の支援者はいつでも非支援者側となる可能性があることをよく知っているはずなのに、なぜそれを犯し繰り返すのか、それを許すのか、人間と社会、個人と集団、一人の人間とその場や環境、文化や慣習などなど様々な視点からもお話を聴かせていただきたいと思います。

また、このシンポジウムは、本学会内外の方々に語り人（カタリスト）としての参加を求めています。この勇気あるカタリストの皆さんに大きな拍手を送りましょう。

座長：未定

1. 滝山病院事件後の動き：

2. 会員、非会員の各専門職、家族、支援者等の発言者（予定）

病院看護師：病院勤務経験者、病院P S W・S W、病院スタッフ（心理職、薬剤師、作業療法士他）、患者当事者、ご家族、地域支援施設の支援者、人権団体関係者等